

研究資料の検索と収集の基礎

山本 圭三・張 曉霖・猿渡 壮

YAMAMOTO Keizo, ZHANG Xiaolin, SARUWATARI Takeshi

1 はじめに

研究を進める過程において、参考文献や既存データなどの検討を避けて通ることはできない。このため、これらの研究資料を収集する作業は、何らかのかたちで必ずおこなうことになる。研究資料を手にするまでの過程は、大きく(1)資料の情報を得る段階と、(2)実際に資料を入手する段階の2つに分けられる。このうち、研究資料を検索する前者の作業は、インターネットを使うことでかなり効率的におこなうことができるようになった。たとえば参考文献を探す作業においても、情報端末・検索サービスを利用すれば、昔のように図書館をひたすら歩き回らなくとも必要な情報を得ることが可能になっている。

ところが、研究を始めて間もない頃は、この第1の情報入手の段階でつまづくことも多い。うまくやれば簡単に情報にアクセスできるのであるが、その具体的な方法を知らなかったり、知っていても十分に活用できていなかったりすることは決して少なくない。また、情報入手の方法を知っていたとしても、研究テーマに関する基礎的な知識が不足しているために「何を探せばよいのか分からない」といった状態になっていることもよくある。

そこで本稿では、研究のための基礎情報を含む様々な研究資料を「手際よく」「網羅的に」収集するための実践的な方法について解説していくことにする。具体的には、研究に関わる基礎知識の収集、新聞・雑誌記事や各種統計資料の検索と収集、参考文献に関する情報の検索と収集などについて紹介していく。これから研究をはじめようとする

学生諸君が、これら研究資料の検索・収集を効率的におこない、有意義な研究をよりスムーズに進められるようになっていただくことが、本稿のねらいである。なお、本稿はあくまでも基礎的な方法を紹介することとし、より発展的な内容については別稿に譲ることとする。

2 基礎的な知識・資料を収集する

2.1 百科事典・専門事典を活用する

基礎的な知識を獲得するためによく用いられるのは、百科事典である。百科事典もたくさんあるが、中でも『Encyclopedia Britannica』は比較的よく使われている。20万を超える項目を有するこの百科事典は、内容が網羅的で項目も体系的に整理されているため、知りたいテーマに関する全体像が把握しやすく、周辺の知識も得やすい。また、日本語版にあたる『ブリタニカ国際百科事典』というものもあり、約半分は日本語版特有のコンテンツが含まれている。日本人の専門家による書き下ろしも多く、日本の人物や文化に関する記述はこちらの方が正確なときもある。英語版と日本語版の両方を使い分けるといいだろう。

知りたいテーマについてある程度の知識が蓄積されてくると、今度はそのテーマが専門領域でどのように扱われ、どういった研究がなされてきたのかについて把握する必要がある。特に、自らがとりあつかう概念を明確にすることは、よりよい研究をおこなう上で非常に重要な作業となる。

その際には、百科事典だけでなく、各専門領域に特化した事典を活用するといいい。

社会学であれば、和文の『社会学事典』（見田宗介・栗原彬・田中義久編、1988、弘文堂）や『新社会学辞典』（森岡清美・塩原勉・本間康平編、1993、有斐閣）、英文の『Encyclopedia of Sociology』（Borgatta, E. F. & Borgatta, M. L. eds., 1992, Macmillan reference, USA）や『International Encyclopedia of the Social & Behavioral Sciences』（Smelser, N. J. & Baltes, P. B. eds., 2001, ELSEVIER, USA）などが有名である。こういった専門的事典は、概念の明瞭化に指針を与えてくれる重要な存在である。また、社会学で重要とされる文献についての解説をまとめた『社会学文献事典』（見田宗介・上野千鶴子・内田隆三・佐藤健二・吉見俊哉・大澤真幸編、1998、弘文堂）も非常に便利である。

辞典類を使用する際には、索引をうまく使うことをお勧めする。たとえば、先に紹介した『社会学事典』（弘文堂）の索引で「アノミー」を引いてみると、「社会統制」「中間集団」「聖と俗」など、実に 18 もの項目の中でアノミーという言葉が使用されているのがわかる。それらの項目について一通り目を通すことで、アノミーに関連する概念についての知識も体系的に得ることができる。

2.2 講座・シリーズ本を活用する

さまざまなテーマをあつかった講座やシリーズ本などを活用することも、研究をうまくスタートするためのコツだ。例えば、『講座社会学』（北上隆吉・塩原勉・蓮見音彦監修、東京大学出版会、全 16 巻）では、「理論と方法」「家族」「村落と地域」「労働」「文化」「政治」など全部で 16 のテーマが、各巻で論じられている。これらの中から自分の研究内容に近いものを読むことで、基礎的な知識を獲得でき、自らの研究領域にどのような研

究があるかを知ることにもできる。社会学の講座・シリーズ本には、他にも『リーディングス 日本の社会学』（全 20 巻、東京大学出版会）、『岩波講座 現代社会学』（全 26 巻+別巻、岩波書店）、『社会学ベーシックス』（全 10 巻+別巻、世界思想社）などがある。また、社会学のさまざまな領域についてのレビュー論文をまとめて定期的に刊行している『Annual Reviews of Sociology』も、基礎的な知識の獲得には有効だ。いくつかのものを手にとってみるといいだろう。

2.3 新聞記事や雑誌記事を検索する

新聞や雑誌の記事は、基礎的事実の確認や研究のための資料としてとても役に立つ。たとえば、特定の時代の世相を知りたいような場合、学術書や論文よりも、その時代の新聞や雑誌の記事に書かれていることの方が重要とときがある。研究を進めていく際には、そうした「生」の状態に近いデータに当たることも必要となる。

新聞記事や雑誌記事は現在ではデータベース化されており、検索も簡単にできるようになっている。以下で、いくつか紹介しよう。

新聞記事を検索する場合、各新聞社が提供する新聞記事データベースを利用するといいい。よく使われる新聞記事データベースには、下記のものがある。これらはいずれも有料だが、大学が契約している場合には、学生は無料で利用できる。

【朝日新聞：聞蔵Ⅱビジュアル】

<https://database.asahi.com/library2/>

【読売新聞：ヨミダス歴史館】

<http://www.yomiuri.co.jp/rekishikan/>

【毎日新聞：毎采】

<http://mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>

【日経新聞：日経テレコン 21】

<http://t21.nikkei.co.jp/?gclid=CPvdqfqKprwCFcvPpA>

odaFUA3g

雑誌記事を検索する場合は、「大宅壮一文庫雑誌記事索引」が役に立つ。「大宅壮一文庫雑誌記事索引」は、大衆娯楽誌専門の図書館である大宅壮一文庫が提供する索引データベースである（図 1）。週刊誌や総合誌、女性誌などの記事を検索することができ、年代についても幅広く網羅されている。

図 1 大宅壮一文庫雑誌記事索引 検索ページ

(<http://www.oya-bunko.com/>)

2.4 統計調査データを検索する

(1) 官庁統計・白書

官庁統計データも、われわれが研究をおこなう上で欠かすことのできない資料の 1 つである。研究の基礎知識として社会の全体像を把握するために用いることもあれば、本格的な分析のためのデータとして用いることもある。ここでは官庁統計に関するデータベースをいくつか紹介しておこう。

日本の各省庁がおこなった統計調査を探す場合、総務省統計局が運営している「e-Stat」がよく用いられる。「e-Stat」は、各省庁が実施した統計調査をすべて網羅するデータベースである（図 2）。キーワードを入力するか、作成機関や調査の種類などを選択して検索すると、検索条件にヒットする統計調査およびその結果が表示される。集計結果の文書が見られるだけでなく、エクセル形式などでまとめられたデータを直接見ることもできる。

図 2 e-Stat トップページ

(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>)



政府統計の情報を得るには、『日本統計年鑑』も便利である。日本統計年鑑は、さまざまな分野で公表された統計をまとめたもので、総務省統計局のサイトで閲覧することができる。

【総務省統計局：日本統計年鑑】

<http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm>

また、各省庁が公表している白書も、社会の実態や施策の現状について知りたい場合に重宝する。白書も現在ではデータベース化されており、「e-Gov（電子政府の総合窓口）」にアクセスすれば、ほとんどの政府系白書を閲覧することができる。

【e-Gov（電子政府の総合窓口）】

http://www.e-gov.go.jp/link/white_papers.html

(2) 官庁統計以外の統計調査

官庁統計以外の調査やその結果について知りたい場合は、東京大学社会科学研究所が運営する「SSJ データアーカイブ」が役にたつ（図 3）。「SSJ データアーカイブ」には、過去におこなわれた数多くの調査の情報がデータベースに登録されている。キーワードを入力して検索すると、その条件に合致する調査の情報が表示され、調査概要、調査票、基礎集計の結果などを閲覧することができる。また、ここに登録されている調査の一部はデ

ータ自体が公開されており、申請すれば実際のデータを手に入れることもできる。

図 3 SSJ データアーカイブ トップページ
(<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>)



3 文献情報を集めるための基礎

3.1 図書館を利用する

(1) 基本：図書館を歩き回る

文献情報を集めるためのもっとも基本的な方法は、図書館を利用することである。方法といっても、することはいたって簡単だ。図書館で並べられている本を、片っ端から見てまわるのである。例えば、労働に関する研究をおこなうならば、労働に関する本が並べられているコーナーを見つけ、棚の隅から隅まで目を通すのである。

いかにも愚直な方法のように聞こえるかもしれないが、実はこの方法にはメリットがある。1 つは、取っ掛かりを得やすいという点である。研究したいテーマこそ見つかったものの、文献に関してはほとんど予備知識がないといった場合は、図書館で実際に書籍を手にとってみるのがもっともはやい。また、隣接領域の文献に目が行き届きやすいというメリットもある。ほとんどの図書館では日本十進分類法という分類法に基づき、分野別に整理された状態で書籍が並べられている¹⁾。そのため、自分の研究領域の文献だけでなく、それに近接する研究領域の文献を探すことも容易であ

る。

たいていの図書館では、書籍と同様に学術雑誌も所蔵されており、だれでも閲覧できるようになっている。書籍だけでなく学術雑誌に目を通すことも、研究の取っ掛かりや基礎知識を得るのに役立つ。雑誌のバックナンバーをいろいろ眺める中で、研究テーマにはどのようなものがあるのか、といった問題がよく議論されているのか、といったことが見えてくることもあるからだ。通常、学術雑誌のコーナーには最新号が並んでいるが、閉架書庫にはバックナンバーも所蔵されている。最新号よりも前の号に掲載されている論文を閲覧したい場合は、閉架書庫をあたるのがいいだろう。

ところで、一般の学生は自分の大学の図書館を利用する場合がほとんどだと思われるが、大学の図書館といっても蔵書には限りがある。このため、必要な文献がそもそも自分の大学の図書館には入荷されていないということもある。このような場合は、他大学の図書館を利用するといった方法もある。自分の大学のレファレンス・サービスカウンターで手続きをとれば、他大学の図書館へ入館し資料を閲覧できるようになる。

また、関東圏、関西圏であれば国会図書館を利用することもできる。国会図書館は、関東は東京都千代田区、関西は京都府相楽郡精華町にある。国会図書館には、基本的に日本で出版されるほとんどの書籍が所蔵されているので、近隣地域であれば活用するとよいだろう。

(2) 図書館における蔵書検索サービス

現在では、図書館に所蔵されている書籍等の書誌情報はすべて電子化され、管理されている。こうした情報をもとに、図書館には「OPAC (Online Public Access Catalog)」と呼ばれる蔵書検索システムが設けられている。図書館ごとに名称が異なる場合があるが、ほとんどの図書館ではこのシステ

ムが導入されている（図 4）。

図 4 OPAC の例（同志社大学「DOORS」）



OPAC では、一般の検索エンジンと同様のキーワード検索に加え、分類番号（注 1 参照）による検索も可能である。そのため、一定の研究分野に限定して検索することができ、図書館の棚を 1 つずつ見てまわるといった探し方をより手早くおこなうことができる。ただし、この方法で検索対象となるのはその図書館に所蔵されている文献だけである。所蔵されていない文献を探すことはできないので、注意が必要だ。

3.2 データベースを活用する

図書館で実際の現物を手に取りながら探していく方法は非常に重要だが、何と言っても時間がかかる。これに対し、情報端末を利用した文献検索では、同じ時間ではるかに多くの情報を検索することができる。ここでは、社会学で頻繁に用いられる、主にインターネットで利用できる種々のサービスを紹介しよう。

(1) CiNii

「CiNii」は、国立情報学研究所が運営している

論文データベースである（図 5）。ここには、一般的な雑誌だけでなく学術雑誌も含めたかなりの情報が登録されており、これを使うことで幅広い分野の論文に関する情報を集めることができる。

図 5 CiNii トップページ (<http://ci.nii.ac.jp/>)



中央部分のバーにキーワードを入力して検索すると、検索条件に合致する論文の情報が表示され、タイトル、著者名、掲載誌名、編集元、発行年、掲載ページなどの情報が得られる。登録されている雑誌名から検索することも可能だ。ページ中央の「CiNii 本文収録刊行物ディレクトリ」をクリックすると、雑誌名から探すページに移動するので、そこから読みたいものを探せばよい。

なお、「CiNii」に登録されている論文の一部は、その場で本文を閲覧できるようになっている。検索オプションの「CiNii に本文あり、もしくは連携サービスへのリンクあり」にチェックマークを入れて検索すれば、検索ワードにヒットする論文の中で本文の閲覧が可能なものが表示される。

(2) Webcat Plus

「Webcat Plus」は、「CiNii」と同じく国立情報学研究所が運営するサイトである（図 6）。ここでは、論文ではなく書籍が検索対象となっており、著者名やキーワードを入力することで、その条件に合致する書籍を表示してくれる。

図 6 Webcat Plus トップページ (<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)



「Webcat Plus」がよく用いられるのは、「連想検索」という機能が設けられているためである(図 6、左側)。キーワードを用いた通常の検索では、基本的にそのキーワードを含む文献が検索されることになる。ところが、この「連想検索」では、キーワードに一致するものだけでなく、入力したキーワードと関連性の高いものも含めて検索してくれる。単語だけでなく、文章をキーワードとして入力することができるのも便利である。

(3) 国立国会図書館サーチ

先述したように、国立国会図書館には日本で発行されたほぼすべての出版物が収蔵されている。そのため、国立国会図書館が提供する「国立国会図書館サーチ」は文献情報の収集にきわめて有効である(図 7)。「国立国会図書館サーチ」では、書籍と論文の両方が検索対象となっており、書籍だけを検索したり、論文だけを検索したりもできる。この点が非常に便利である。

なお、国会図書館には東京本館と関西館があり、館ごとに所蔵しているものが異なる。そのため、国立国会図書館を利用して実際に文献を閲覧する際には、事前に「国立国会図書館サーチ」で所蔵館を確認しておくといいたいだろう。

(4) 社会学文献情報データベース

社会学分野では、「社会学文献情報データベース」もよく用いられる。「社会学文献情報データベ

ース」も、国立情報学研究所が運営しているサイトである(図 8)。ここでは、文献の中でも社会学分野のものが多く登録されており、社会学関連の文献を探す際には役に立つ。論文と書籍の両方を探すことができるのも便利だ。

図 7 国立国会図書館サーチ トップページ
(<http://iss.ndl.go.jp/>)



図 8 社会学文献情報データベース トップページ
(http://dbr.nii.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000031SOCIO)



(5) JSTOR

これまで紹介してきたサービスは基本的に和文の文献を検索するものであるが、時には欧文の文献を調べることも必要になる。欧文の文献を探す場合には、「JSTOR」が最もよく用いられる。

「JSTOR」は人文、社会、自然科学分野の全文データベースである（図 9）。通常、紙媒体で刊行されてから 2～5 年ほど経過したものを収録している。「JSTOR」を使うことで、世界中の学術出版物の情報が簡単に得られるし、場合によっては「CiNii」と同様本文を直接閲覧することもできる。「JSTOR」には、キーワードで検索する「SEARCH」と、ジャーナルのタイトルで検索する「BROWSE」という 2 通りの検索方法がある。必要に応じて使い分けるとよいだろう。

図 9 JSTOR トップページ

(<http://www.jstor.org/>)



(6) 一般検索エンジンを用いた検索

インターネット上には、様々な文献に関して、簡単なレビューから本格的な書評まで、多くの情報が公開されている。そのため、文献に関する情報を検索する場合、これまで紹介した学術データベースだけでなく、Google や Yahoo などの一般の検索エンジンが役に立つこともある。本来ならば実際に文献を通読した上で慎重に吟味するのが好ましいが、時間の制約などにより、そういった作業が十分にできないこともある。また、文献によっては、現在の研究に直接は関係しないが一応調べておく必要がある、といったものもあるはずだ。

このような場合には、一般検索エンジンを利用して書籍や論文について調べるといい。

また、書籍の情報検索に関しては、Amazon などのオンラインショップのデータベースも重宝する。オンラインショップでは、和書洋書に関わらず、目次や簡単な内容紹介、利用者によるレビューなども見ることができる。

Google などの一般検索エンジンはもちろんのこと、先述したデータベースの検索システムも、使い方次第で検索の精度は飛躍的に向上する。ここでは、たいていのサイトで使える検索オプションについて簡単に説明しよう。

【AND 検索】

検索をおこなう際には最も多く用いられている方法で、入力した単語やフレーズをすべて含むページを探せという命令である。検索エンジンなどでは、単語と単語の間にあるスペースが「AND」の意味で認識されることになる。したがって、「○○ △△ □□」といった具合に、単語と単語の間にスペースを入れれば AND 検索をすることになる。

【OR 検索】

入力した単語やフレーズのいずれかを含むページを探せという命令である。OR 検索をするには、単語もしくはフレーズの間に「or」と入力すればよい。「○○ or △△ or □□」といった具合に、単語やフレーズの間に「or」と入力すれば、それらを 1 つでも含むページを検索することができる。

【NOT 検索】

入力した単語やフレーズを含まないページを探せという命令である。検索エンジンなどでは、基本的に入力された文字列を含むページがすべて検索されることになる。このため、場合によっては

不必要な情報もあわせて検索されてしまうことも少なくない。たとえば、京都について調べようとして「京都」と入力して検索した場合、「京都」という文字列を含む「東京都」も一緒に検索されてしまうのである。

このような場合に、NOT 検索は便利である。検索したい単語を入力し、その後ろに「NOT ○○」と入力すれば、NOT の後ろの単語を含まないページのみが結果として表示される（検索エンジンによっては「NOT」ではなく「-（マイナス）」を用いる場合もある）。上の例で言えば、「京都 NOT 東京都」（あるいは、「京都 -東京都」）と入れれば「東京都」という単語を含まないページのみが検索されることになる。ただし、NOT 検索をおこなった場合、両方のキーワードが入っているページも検索対象外になるので注意が必要だ。

【フレーズ検索】

いくつか入力した言葉を、1 つ 1 つの単語ではなく 1 まとまりのフレーズとして認識させ、それを含むページを探せという命令である。日本語で検索する場合には頻繁に使うことはないが、欧文の場合は大いに役立つ。

例えば、ある人が京都タワーを紹介する英語のページを検索しようとしているとする。このとき、単純に「Kyoto Tower」と入力してしまうと、「“Kyoto” と “Tower” を同時に含むページを検索せよ」という意味になってしまう。上で述べたように、検索エンジンにおいてスペースは「AND」の意味で認識されるからである。もちろん AND 検索でも探せなくはないが、目的のページ以外のものも多くヒットしてしまうため、うまく探せなかったり時間がかかったりしてしまい、具合がよくない。

このような場合に、フレーズ検索は便利である。フレーズ検索をするには、1 まとまりにしたいフ

レーズを二重引用符「"」で囲めばいい。上の例で言えば、「"Kyoto Tower"」と入力することで、「Kyoto Tower」というフレーズを含むページを検索することができる。

【ファイルタイプ指定】

検索するページのファイル形式を指定するものであり、一般検索エンジンで使うことが多い。論文などの場合、本文が Adobe Acrobat PDF 形式や Microsoft Word 形式でそのまま公開されていることもある。こうした文献を検索する場合には、ファイルタイプを指定した検索をおこなうことで、的確にその本文に到達することができる。

検索したい単語やフレーズを入力した後に、「filetype:○○」と入力すれば、ファイルタイプを指定した検索ができる。「○○」の部分には括弧子にあたる文字列を入れることになる。たとえば、検索したいファイルが Microsoft Word 形式であれば「doc」「docx」、Microsoft Excel 形式であれば「xls」「xlsx」、Adobe Acrobat PDF 形式であれば「pdf」、Microsoft Power Point 形式であれば「ppt」「pptx」と入力すればよい。

検索オプションは他にもまだあるが、上記の 5 つを駆使するだけで検索の効率は十分にアップする。色々な方法を試してみるとよいだろう。

3.3 文献リストを活用する

研究論文や専門書などの文献の最後には、文献リストが記載されている。この文献リストは、いわば著者の文献探しの苦勞の結晶である。われわれが文献情報を収集する際には、これを活用しない手はない。その際、以下のような手順を踏むと文献情報を網羅的に収集することができる。

- (1) 自分が現在もっている文献に記載されている文献リストを参照する。
- (2) 記載されている文献のうち、関係がありそうなものをピックアップし、自分のリストに加える。
- (3) 自分のリストのうち、まだ手元にないものを入手する。
- (4) 入手した文献に記載されている文献リストと、手元のリストを照らし合わせる。
- (5) 新たに見つけたものを手元のリストに加える。
- (6) (3)、(4)、(5) を繰り返す。

一見効率が悪そうに思えるかもしれないが、この方法には少なくとも 2 つの利点がある。1 つ目は、文献探しをより網羅的にできる点である。研究を始めた当初などは、図書館やデータベースだけを用いて文献探しをしていると、重要な文献を見落としてしまうことが時にある。文献リストには当該研究分野で重要とされる文献が記載されているため、さまざまな文献リストを繰り返し参照することで、重要な文献を見過ごしてしまう危険を少しずつ減らしていくことができる。

2 つ目は、文献リストを追っていくことで、研究分野の枠を超えた文献探しがスムーズにできる点である。たとえば、社会学で論文を書こうとしたとき、場合によっては社会学以外の分野の文献

にあたる必要も出てくる。だが、専門が異なる分野だと、図書館にずらっと並ぶ文献のうちどれが重要で、どれがそれほど重要でないかの判断がつきにくいこともある。こんな場合、先行研究の文献リストを参照すれば、他の研究領域で参考になりうる文献をスムーズに把握することができるのである。このことは、自分がおこなっている研究が諸研究領域においてどのような射程をもつものなのかを把握する上でも役立つ。

3.4 文献リストを作成する

文献に関する情報を収集した後は、それを自分の文献リストとしてまとめておくといい。論文で引用したり参考にした文献の情報は、所定の形式に整えた上で論文中に記載しなければならないし、論文に使用しなかったとしても、文献情報をリストとしてまとめておくと、後々改めて検索をおこなう際に役に立つ。

文献リストには大体以下のような情報が必要になる(表 1)。文献リストのスタイルは分野によって異なるが、社会学においては『社会学評論』のスタイルが一般的に用いられている(表 2)。詳細な規則については日本社会学会のウェブサイト上に公開されているので、そちらを参照していただきたい。

表 1 文献リストに必要な情報

書籍の場合		論文などの場合	
必要事項	例	必要事項	例
著者名・編者名	安田 三郎	著者氏名	小林久高
発行年	1971	発行年	1991
タイトル・副題	社会移動の研究	タイトル・副題	社会規範の意味について
出版社名	東京大学出版会	収録誌	社会学評論
		編集元	日本社会学会
		収録巻号	42巻1号
		掲載ページ	32-46

表 2 文献リストの例 (社会学評論スタイル)

邦文の文献	単著	真木悠介, 1977, 『気流の鳴る音』筑摩書房.
	共著	宮島喬・梶田孝道・伊藤るり, 1985, 『先進社会のジレンマ』有斐閣.
	編書	高坂健次・厚東洋輔編, 1998, 『講座社会学 1 理論と方法』東京大学出版会.
	編書論文	船橋晴俊, 1998, 「環境問題の未来と社会変動——社会の自己破壊性と自己組織性」船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12 環境』東京大学出版会, 191-224.
	雑誌論文	佐藤嘉倫, 1998, 「合理的選択理論批判の論理構造とその問題点」『社会学評論』49(2): 188-205.
	翻訳書	Fromm, Erich, 1941, <i>Escape from Freedom</i> , New York: Reinhardt and Winston. (=1951, 日高六郎訳『自由からの逃走』東京創元社.)
英文の文献	単著	Broadbent, Jeffrey, 1998, <i>Environmental Politics in Japan: Networks of Power and Protest</i> , New York: Cambridge University Press.
	共著	Berger, Peter L. and Brigitte Berger, 1972, <i>Sociology: A Biographical Approach</i> , New York: Basic Books.
	編書	Douglas, Jack ed., 1970, <i>Understanding Everyday Life</i> , Chicago: Aldine.
	編書論文	Mayer, Margit and Poland Roth, 1995, "New Social Movements and the Transformation to Post-Fordist Society," Marcy Darnovsky, Barbara Epstein and Richard Flacks eds., <i>Cultural Politics and Social Movements</i> , Philadelphia: Temple University Press, 299-319.
	雑誌論文	Abbott, Andrew, 1995, "Things of Boundaries," <i>Social Research</i> , 62(4): 857-82.

【社会学評論スタイルガイド】

<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide.php>

4 文献・資料を入手する

これまで紹介した方法によって、自分が読むべき文献のリストはある程度できあがる。リストができあがれば、次は実際に文献を入手する作業になるわけだが、文献によってはなかなか手に入りくいものも存在する。そこで次に、文献を入手する際のいくつかの手順について述べておこう。なお、以下では基本的に和書・和雑誌を入手することを想定して述べていくが、洋書・洋雑誌に關しても基本的には同じと考えてもらえばよい。

4.1 身近な図書館にない文献を入手する

(1) 所蔵する図書館を探す

欲しい文献が普段利用する図書館に所蔵されていれば、そこで文献を入手すればいいが、時には所蔵されていないこともある。この場合、ほかの図書館から文献を入手しなくてはならない。

手に入れたい文献が身近な図書館にないときは、

まずその文献がどの図書館に所蔵されているかを調べる必要がある。こうした情報を得る際にも、データベースが有効である。よく使われるのは「CiNii books」だ (図 10)。

「CiNii books」は、3.2 で紹介したデータベースと同様、キーワードを入力することで様々な本や雑誌を検索することができる。また、書誌情報とともに、その文献がどの大学の図書館に所蔵されているかを表示してくれる。たとえば『同志社社会学研究』を検索すると、図 11 のように、所蔵されている大学がリストアップされる。





図 10 CiNii books トップページ
(<http://ci.nii.ac.jp/books/>)



図 11 CiNii books の検索結果
(例：『同志社社会学研究』を検索)

大学図書館所蔵 37件

すべての地域 ▼ すべての図書館 ▼

	茨城大学 附属図書館 OPAC 図 1998-2000: 2-6
	大阪市立大学 学術情報総合センター OPAC 5-17
	大阪大学 附属図書館 総合図書館 OPAC 図 1
	岡山大学 附属図書館 OPAC 附属図 1998-2-5,7-8,11-16

(2) 他大学図書館所蔵の文献を入手する

欲しい文献が他大学の図書館にしかない場合、自分の大学のレファレンス・サービスを通じていくつかの手続きを行うことになる。手続きの具体的な方法について説明しよう。

まず、足を運べる範囲の大学について。この場合は、まず入館するための紹介状をレファレンス・サービスカウンターに発行してもらうことになる。この紹介状をもって他大学の図書館に入館し、そこで借りたりコピーしたりすることで文献が手に入る。

次に、自大学から遠い大学について。この場合、自ら行くことはできないので、レファレンス・サービスカウンターに依頼して、資料を取り寄せることになる。文献によっては不可能なものもあるが、借用や複写が可能な場合が多い。自分で得た文献の情報とともに依頼内容を伝えれば、一定期間の後にサービスカウンターから書籍やコピーを受け取ることができる。

注意しておかなければならないのは、いずれのサービスも申請から利用までに多少の日数がかかる、ということである。大学図書館の間でやりとりがおこなわれるわけだから、このような手続きにはどうしても時間がかかる。内容にもよるが、国内の大学でも最低 2 週間、海外であればそれ以

上かかると考えておくとよい。あらかじめこうした期間を見越し、余裕を持って申込んでおこう。

(3) レファレンス・サービスを最大限活用しよう

図書館のレファレンス・サービスは、他大学の文献を入手するとき以外にも、さまざまな場面でわれわれの助けになってくれる。たとえば、レファレンス・サービスカウンターでは資料や文献の探し方に関する質問なども受け付けている。また、資料の購入依頼を受け付けていることも多い。必要な文献が図書館にない場合、レファレンス・サービスカウンターで依頼すれば、図書館の蔵書として購入してくれることがある。

その他にも、レファレンス・サービスは色々と助けになってくれることが多い。どこの図書館にいても、困った時はレファレンス・サービスカウンターに行く習慣をつけておくとよいだろう。

4.2 購入する

(1) 新品を購入する

文献を購入する場合は、書店や Amazon などのオンラインショップで購入するのが一番手っ取り早い、お勧めなのは大学生協である。大学生協は通常の価格よりも割引で販売しているため、高価な学術書などを購入する際は特に重宝する。

大学生協で書籍を購入する際に役に立つのが、「Honya Club」というウェブサイトである。この「Honya Club」は、Amazon などと同様にネットを通じて書籍を購入できるサイトであるが、便利なのは、購入・受け取り場所として大学生協を指定することができる点である。このため、欲しい文献が大学生協においてなかったとしても、「Honya Club」を通じて手軽に注文することができる。しかも、支払いも生協でおこなうことができるため、生協の販売価格で購入ができるのである。学術雑誌や専門的な学術書は生協の店頭に並んでいない

ことも多いが、このような方法をとれば比較的簡単に、かつ通常よりも安い価格で手に入れられる。

【Honya Club】

<http://www.honyaclub.com/shop/default.aspx>

(2) 中古で購入する

文献によっては、既に絶版になっており新品で購入できない場合もある。また、いくら大学生協で割引がきくといっても、あまりに高価な文献にはなかなか手が出にくいだろう。そんな時には、中古で購入するというのも1つの手だ。

オンラインで古書を購入することができる代表的なサイトとしては、東京都古書籍商業協同組合が運営する「日本の古本屋」がある。「日本の古本屋」では、加盟店が保有している商品の情報がすべて電子化されており、購入希望者はまず商品を検索し、見つければそれを注文できるようになっている。また、さらに一般的なサイトとして「本の枝折」がある。「本の枝折」は、「日本の古本屋」など様々な中古書籍ネットショップに登録されている商品を横断的に検索できるサービスである。欲しい文献が見つければ、後はそれぞれのネットショップから直接注文する形態になっている。

あくまでも中古品なので場合によってはかなり使い古した商品にめぐり合ってしまうこともあるが、時には元値が高いものを驚くほど安い値段で手に入れられることもある。試しに色々探してみるとよいだろう。

【付記】

本稿は、山本圭三・張曉霖、2010「文献検索と収集の基礎」小林久高編『2009年度大学生社会意識調査(同志社大学 社会調査実習報告書 18)』pp.299-325 に大幅な修正を施したものである。

【参考文献】

- 池田祥子、1995 『文系学生のための文献調査ガイド』青弓社。
加藤秀俊、1975 『取材学』中公新書。
溝部明男、1996 「文献検索の方法」金沢大学文学部行動科学科編『人文・社会科学の技術とツール』1-30。

【日本の古本屋】

<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>

【本の枝折】

<http://www.crypto.ne.jp/shiori/>

5 おわりに

基礎的な資料の収集や先行研究の検討は、研究の土台づくりのようなある意味で地道な作業である。だが、研究を進める上では欠かすことのできないものであり、それが十分におこなわれることによって、後の研究も充実していくことになる。本稿で紹介した方法を参考にしつつ、しっかりした土台に基づいた研究をおこなっていただければと筆者らは考えている。

【注】

- 1) 図書館に並べられている本の背表紙には、「361Y3」といった記号が必ず書かれているが、これは日本十進分類法に基づいて定められた記号である。日本十進分類法は、内容に応じて規則的に記号が与えられており、一番大きい区分は以下になっている。

番号	分野	番号	分野
0類	総記	5類	技術・工学・工業
1類	哲学	6類	産業
2類	歴史	7類	芸術
3類	社会科学	8類	言語
4類	自然科学	9類	文学

※「▲類」は、百の位が▲であることをあらわす